高知カシオ起工

来年7月操業開始

カシオ計算機株式会社（樫尾和雄社長・東京都）の関連会社高知カシオ株式会社（樫尾幸雄社長・カシオ計算機専務）の起工式が、九月二十五日に比江工業団地で行われました。来年七月に操業が開始される予定で、大型ハイテク企業の立地に関係者は早くも大きな期待を寄せています。

起工式でくわ入れをする樫尾和雄社長

高知カシオは、カシオ計算機の創業者故樫尾茂前会長と、樫尾忠雄相談役が、本市植田の出身であることから、県が早くから積極的に誘致を働きかけていたもの。昭和六十一年四月に比江工業団地に土地を購入。今年六月調印式が行われ、進出が正式に決まりました。

新工場は、約二七、〇〇〇平方㍍の敷地に鉄骨二階建ての工場と機械棟を建設。延べ床面積は九、六〇〇平方㍍。初期投資額は六十五億円で、従業員百五十人でスタート。カシオが全面的に出資する関連会社として、TAB（テープ・オートマティッド ボンディング）方式のLSIなどの電子部品を製造することになっており、カシオの工場としては国内で五番目。

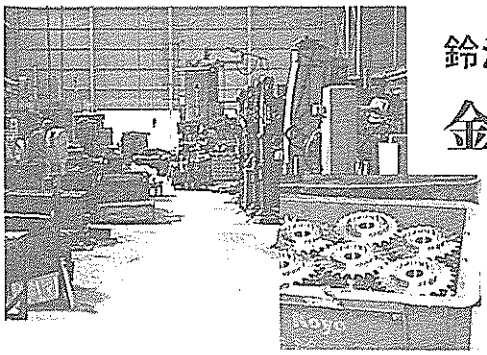
起工式には樫尾和雄社長や樫尾幸雄専務、中内力知事、小笠原喜郎市長ら関係者約八十人が出席。樫尾和雄社長らがくわ入れなどをして工事の安全を祈願しました。

その後、明見のホリディ・ホールに場所を移して起工を祝いました。その席であいさつにたった樫尾和雄社長は「皆さんの協力で、なつかしい地に進出が果たせた。地域社会に貢献できるようがんばりたい。父も喜んでいると思う」と語っていました。また。中内知事は「高知県のレベルアップのためにも、どうしてもきていただきたいと考えていた。人材の確保や環境整備も全力を上げて応援していきたい。発展を期待している」と祝辞を述べ、樫尾和雄社長に感謝状を手渡しました。

鈴江農機

金地の新工場で操業開始

機械加工を主に



経営再建のため、金地に移転工事を進めていた鈴江農機製作所（土居新一社長）の新工場が、このほど完成し、操業を開始しました。

鈴江農機は、大正七年に創設され、農機具の総合メーカーとして発展しましたが、オイルショックの影響で業績が悪化し、昭和五十四年に会社更生法の手続きをとって事実上倒産。その後、工場の売却などで債務を返済し、六十三年に更生手続きを完了して、今年五月から新工場の建設工事を進めていました。その工場が九月に完成。十月十一日から新工場で操業を開始しました。

新工場は、約六、二〇〇平方㍍の敷地に、鉄骨平屋建ての工場兼事務所と付属棟三棟で、延べ床面積は約二、七〇〇平方㍍。

三菱重工の協力工場として、旋盤の下請け加工や歯車の製造、印刷機、変速機の組み立てなどを主とし、農機具は補修部品の生産にとどめることにしています。

従業員は現在五十五人ですが、土居社長は「地元の主婦らも積極的にパート雇用していきたい」と話していました。